

乙 第 号

松本 憲和 学位請求論文

# 審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

報告番号	乙第号	氏名	松本 憲和
論文審査担当者	委員長	教授	西 真弓
	委員	教授	熊井 司
	委員	教授	田中 康仁
	(指導教員)		

主論文

Regional Differences in Elements of Human Peroneus Longus Tendons

和訳：長腓骨筋腱の各領域における元素分析の検討

Norikazu Matsumoto, Tsukasa Kumai, Shinji Isomoto,

Yasushi Shinohara, Yasuhito Tanaka, Cho Azuma,

Takeshi Minami, Yoshiyuki Tohno

Journal of Biological Trace Element Research

第 154 卷 185-189 頁 2013 年 6 月発行

## 論文審査の要旨

腱の中には走行が湾曲し、筋収縮の際に腱と骨組織の間で圧迫が生じる wrap around 構造を持つものがある。腱実質部、wrap around 部、腱付着部では、解剖学的、分子生物学的構造に差異を認めるが、微量含有元素量の詳細な検討はなされていない。申請者は長腓骨筋腱のそれぞれの領域における含有元素量を計測し、組成の相違と機能について検討を行った。結果は Ca、P、S、Mg の含有量は wrap around 部で有意に高値であり、前 2 者は線維軟骨の変性所見を、後 2 者は線維軟骨の総量を反映していると結論している。単一の腱組織においても解剖学的に異なる領域では機能の相違により元素組成変化が生じている事を証明した。また S 含有量は腓骨後方部、立方骨底側の 2 か所の wrap around 部を比較しても圧迫力をより強くうける後者で高値を示し、同部位には線維軟骨がより豊富に存在する事を証明した。

本研究は腱の変性の程度、線維軟骨の総量を解剖学的、生物学的には困難である客観的な数値化を行い実現させたものであり、今後の他の腱組織への応用も期待され、有意義な研究であると考えられる。

## 参 考 論 文

### 1. 高齢者に対する外反母趾の手術成績・術後外固定の必要性・

松本憲和, 石崎嘉孝, 熊井司, 田中康仁,

日足外会誌 34(1):63-67, 2013

### 2. 当院における高齢者重度外反母趾術後(水平骨切り術)に対する外固定の使用 経験

松本憲和, 松永紘幸, 田中康仁

靴の医学 26(2):102-106, 2012

### 3. Orthofix 創外固定器を用いた第 1 中足骨短縮症に対する仮骨延長術

松本憲和, 田中康仁, 熊井 司, 林 宏治, 磯本慎二,

成川功一, 門野邦彦, 鈴木順三, 藤井唯誌, 杉本和也,

高倉義典

日足外会誌 28(2):49-52, 2007

### 4. 腓骨筋腱脱臼の手術治療成績の検討

井川真依子, 松本憲和, 石崎嘉孝, 熊井 司, 田中康仁

中部整災誌 54:1175-1176, 2011

### 5. 踵骨の脆弱性骨折に対する治療経験

大西正展, 松本憲和, 石崎嘉孝, 友山真依子, 北條潤也,

田中康仁

中部整災誌 54:343-344, 2011

6. Bizarre parosteal osteochondromatous proliferation of the sesamoid: an unusual hallux valgus deformity.

Noguchi M, Ikoma K, Matsumoto N, Nagasawa K

Foot Ankle Int 25:503-506, 2004

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

平成 26 年 7 月 8 日

学位審査委員長

分子生体構造科学

教 授 西 真弓

学位審査委員

スポーツ医科学

教 授 熊井 司

学位審査委員（指導教員）

運動器再建医学

教 授 田中康仁